

《資料館便り》

平成 27 (2015) 年
7 月号



石川町立歴史民俗資料館は、町の文化財保存と活用、町民の教育、学術及び文化の発展を目的に、昭和 49(1974) 年秋に開館しました。公的施設としては、県下のさきがけの一つです。

○「資料館便り」編集：発行 石川町立歴史民俗資料館
〒963-7845 石川町字高田 200-2 0247 (26) 3768

～終戦70年～『取材相次ぐ！』

○第二次世界大戦「アジア・太平洋戦争」が昭和 20 年 (1945) 8 月 15 日に終結して、今年は 70 年です。節目の年にあたり、本資料館にも各報道機関、研究者、ジャーナリスト、映画製作関係者等からの取材や問い合わせが相次いでいます。

資料館では、この研究の第一人者、橋本悦雄さん (石川町文化財保護審議会委員) が対応しています。

○石川町が注目されるのは、この大戦末期、昭和 20 年 4 月に、※「理化学研究所希元素工業扶桑第 806 工場」がこの町に創設されたことによります。この工場は、石川産の鉱物から、当時の最新兵器に欠かせない元素を取り出す研究を目的に設置されました。特に、「新型爆弾」(いわゆる「原子爆弾」) 開発研究に必要な原料の確保が大きなねらいでしたが、その僅か 4 カ月後には終戦を迎えました。



↑ 資料館 (戦時中のコーナー前) で、テレビの取材を受ける橋本悦雄さん



↑ 高田にあった「理研希元素工業扶桑第 806 工場」(ジルコン工場)。現在の県立石川高校、町体育館、公民館、資料館がその敷地にあたります。



平成 25 年秋
に出版され、
福島民報出
版文化賞特
別賞を受賞
しました。

※「理研希元素工業扶桑第 806 工場」

秋田出身の鉱山師丸野内鉄之助がジルコン選鉱所として、昭和 19 年秋～同 20 年春にかけて建設していましたが、同年 4 月に陸軍から移譲を迫られました。間もなく、そこに理化学研究所飯盛里安研究室が入りました。詳しくは、『ペグマタイトの記憶』(H25 年 8 月刊行) や「資料館便り」(H26 年 8 月号) をご覧ください。